21世紀へ向って—近畿の明日を創る。

近畿には長い歴史と伝統があり、古くから日本の政治、経済、文化の中心としての役割を果してまいりましたが、近年、情報、交通などの目ざましい発達に伴い、環境の変化から、政・経の中枢機能が東京に集中、そのため、相対的に関西の地盤沈下が顕著になり、近畿の復権が呼ばれて久しくなります。このような沈下傾向に歯止めをかけ、近畿の一層の発展を期するためには社会資本の整備がその基盤となるものと考えられます。

いまわが国は、未曽有の厳しい国際的経済環境の中で行・財政の改革、再建と言う困難な課題に直面しております。世界の経済大国に名を連ねるわが国も、その社会資本は道路、上下水道、公園など、いづれも欧米先進諸国にまだまだ大きく立ち遅れております。

社会資本の整備充実は、未来への大きな遺産構築でありますから、百年の大計のもとに、計画的かつ継続的に推進されるべきものと思われます。

21世紀も間近であります。その日に備えて、近畿圏ではいま、関西新国際空港、京阪奈文化学術研究都市の二大プロジェクトが緒に着かんとしており、加えて、夢の架け橋、明石海峡大橋が大きくクローズアップされてまいりました。この三つのプロジェクトを軸として、国際文化都市圏としての近畿の未来構想の条件が整ってきたわけでありますが、その鍵をにぎっているのが基盤となる豊かな社会資本の整備、蓄積であります。

私ども建設業界は、戦後40年、経済の発展と豊かな国づくりを目指して、たゆまぬ努力を続けてまいりました。この社会資本の整備充実に向けて、業界の役割と社会的責任を十分に自覚して、国民の皆さんの期待に応える決意であります。今後とも各方面のご理解とご支援をお願いいたします。

昭和60年11月

㈳日本土木工業協会関西支部

支部長　勝　田　悦　之

明石海峡から淡路島を望む